

## 10年後がまちどおしい・桜の植樹

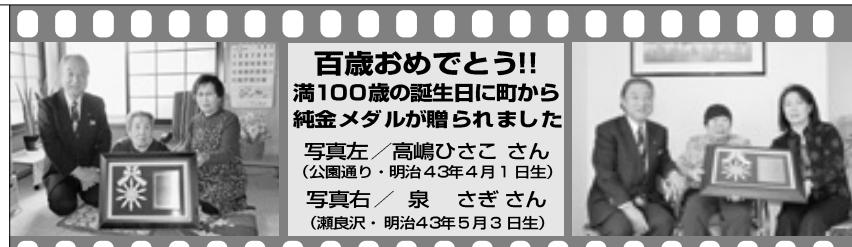
4月24日（土）、鶴寿公園において、事前に申し込んだ町民200人が参加して、桜の木100本の記念植樹が行われました。

植樹には、水元中央小学校緑の少年団の皆さんがボランティアとして参加し、司会と進行を務めてくれました。開会式で中野町長が「今までの植樹で、町には2千本の桜が植えられ、今回の植樹で、きっと将来鶴田町は桜の名所となることでしょう。皆さまのご協力に感謝いたします」とあいさつを述べた後、緑の少年団の児童とともに記念植樹が行われました。

植樹では、元気に大きくなれとそれぞれの家族が願いを込めていねいに植えられ、最後に家族の名前や子どもの名前、誕生記念や結婚記念など記念のプレートが付けられていました。



①三世代で参加し記念植樹するファミリー ②緑の少年団の子どもたちと記念植樹をする中野町長と出町議長 ③入学記念の桜を植樹する新1年生 ④山本副町長から苗木の結わえ方を教わる児童



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。（☎22-2111 内線263）

## みつば会が創立20周年

4月30日（金）、国際交流会館で「みつば会創立20周年記念祝賀会」が開かれました。

祝賀会で木村夢知子会長は、「関係するたくさんの皆さまのおかげでここまで来ることができました」と感謝の言葉を述べ、記念講演では、五所川原市食生活改善推進員会金木支部長青山ユキ氏を講師に招き、地域における食生活改善の重要性についての講演が開かれました。

現在、鶴田町食生活改善推進員会（みつば会）は81人で構成されており、日々町民の健康のために食生活改善に取り組んでいます。



△今まで受賞した数々の表彰状



△今まで支えてくれた方々に感謝の言葉を述べる木村夢知子会長



△中野町長と講師の青山さんを囲み創立20周年の記念撮影

## 本に親しむブックスタート事業始まる

町では今年4月から、誕生証書交付式と3歳児健診時に、幼児期から本に慣れ親しむために絵本を贈る「ブックスタート」の事業がスタートしました。

第1回目として、4月27日（火）、国際交流会館で行われた誕生証書交付式で、誕生証書とともに参加したご家族へ幼児用の絵本が贈られました。

当日は、絵本の贈呈のほか、鶴田町子育て支援センター（つるた乳幼児園）の先生方による「読み聞かせ」が行われ、幼児期における母親の読み聞かせで「赤ちゃんに語りかける」ことの大切さが述べられていました。



△誕生証書と絵本が贈られる



△子育て支援センターの先生方による読み聞かせが行われました



①「おいしい」のことばに顔がほころぶ中野さんご夫婦 ②岩木山の「雪藏」からリンゴを掘り起こす様子 ③リンゴをほおばりながら保存の仕方について質問する6年生の児童 ④当日出されたジューシーな「雪藏リンゴ」

## 雪の中で6か月・雪藏リンゴを贈る

4月28日（水）、水元中央小学校（野呂良悦校長）で、妙堂崎地区で農業を営む中野光彦さんが、岩木山中腹の雪の中に6か月間埋めておいた「雪藏リンゴ」を全児童にプレゼントしました。

さっそく「雪藏りんご」は、その日の給食メニューに出され、児童たちは「甘い、おいしい」を口々に一人で何個もほおばっていました。

この雪藏りんごは、中野さんを含めた鶴田町とつがる市のリンゴ農家で作る「つがる岩木雪藏りんごの会」の皆さんによる、共同作業で昨年11月に、岩木山4合目の雪の中に貯蔵しておいたもので、一冬越したこのリンゴは作秋に比べて糖度が増しており、また、もぎたてのフレッシュ感を味わえる大変おいしいりんごです。

## 野鳥の森に巣箱掛け

4月30日（金）、水元中央小学校4年生17人が、緑の少年団活動の一環として、津軽富士見湖畔にある「野鳥の森」に巣箱掛けをしました。

巣箱掛けでは、笠森松三さん（津軽富士見湖の自然と野鳥を守る会会長）から、鳥が風邪を引かないように巣箱の入り口を風の入る北向きや西向きにしないことや巣箱を掛けたあとは自分たちで見に来たり、触ったりしないことなどの指導を受けた後、自分たちが作った巣箱をはしごに上がりながら上手に木々に掛けて回りました。



△ぼくの巣箱にたくさん入ってね



△笠森さんの言う通り巣箱の入り口を南側に向けて付けました



△ぼくたちの作った巣箱に野鳥は入るかな？